

いもち病、紋枯病および熱中症対策について

病害が発生したら**初発で防除を行う事が重要**です。ほ場をよく観察して、病斑を確認した場合は基幹防除前でも、早急に補正防除を実施しましょう。

使用する薬剤は、稲作暦や下記を参考に使用時期や使用回数を確認して、選択してください。

いもち病

いもち病は直接的な減収要因となる重要病害のひとつです。いもち病が発生しやすい条件下では、防除が遅れるとそのほ場だけでなく地域(周辺2km程度)に蔓延します。

【対策】

- ① **いもち病に効果のある箱施薬剤を使用する(重要)**
- ② 老化苗やいもち病に感染した苗を移植しない
- ③ 置き苗(補植用)は補植が終わり次第直ちに処分する(ひっくり返しておく
と枯れます)
- ④ **葉いもち防除は発生初期、穂いもち防除は出穂直前に実施する**



置き苗から本田へのいもち病侵入

名称	使用量	使用回数	使用時期
コラトップ ジャンボP	10～13パック/10a	2回まで	葉いもち: 初発20日前～ 初発時 穂いもち: 出穂30～5日前
ノンブラス フロアブル	1000倍 水量60～150L/10a	2回まで	収穫7日前まで

紋枯病

紋枯病は葉鞘の水分上昇を妨げ、倒伏しやすくすることで減収の要因となります。発生は最高分けつ期～幼穂形成期の頃から見られ始め、気温の上昇と共に病斑の進展も早くなります。

菌は**土壌中で越冬**することから、前年度発生した圃場は要注意です。

【対策】

- ① 施肥基準を守り、窒素肥料を多用しない
- ② 株間湿度が高まらないように、密植栽培は避ける
- ③ **早期は出穂期、普通期は出穂2週間～10日前**に薬剤防除を行い、病斑の進行がみられる場合は補正防除を行う

病斑



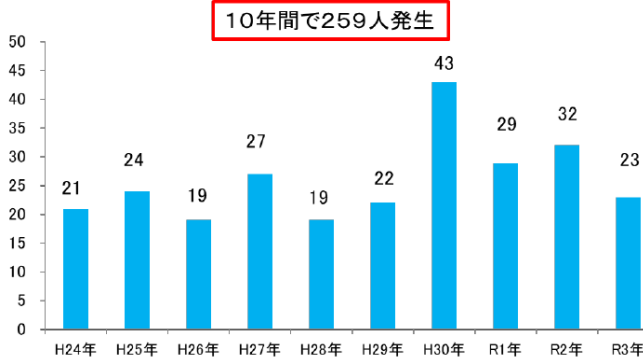
名称	使用量	使用回数	使用時期
バリダシン 液剤5	1000倍 水量60～150L/10a	5回まで	収穫14日前まで

農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況および予防対策（農林水産省HPから引用）

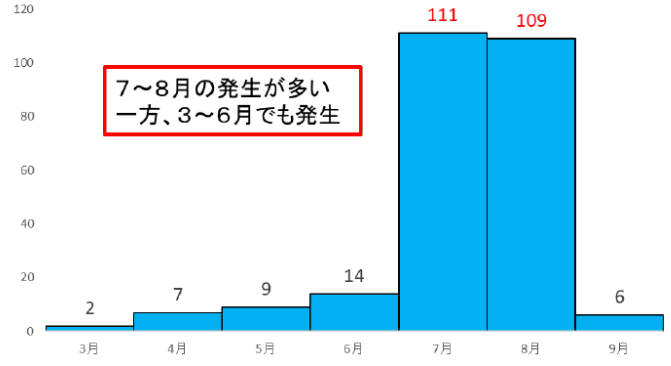
農作業中の熱中症は、自分では自覚していないケースが多くあります。特に、高齢の農業従事者については、脱水症状を起こしやすく、こまめな水分と塩分の補給や休憩をとるよう周囲の方が協力して声掛けを行うなどの対策が必要です。また、最高気温30度を超えると重症化しやすいので、可能な範囲で高温時には作業しないことも視野に入れてください。

農作業中の熱中症による死者数の推移
(平成24～令和3年)

死者数(人)



農作業中の熱中症による死者数
月別(平成24～令和3年)



※発生月が不明な事故が1件あるため、総数は他のグラフと異なっている

* 予防のポイント *

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



* 熱中症が疑われる場合には *

01 作業を中断



(代表的な症状)

- 汗をかかない、体が熱い
- めまい、吐き気、頭痛
- 倦怠感、判断力低下

02 応急処置



- 涼しい環境へ避難
- 衣服をゆるめ体を冷やす
- 水分・塩分を補給

03 病院へ



応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう!!